

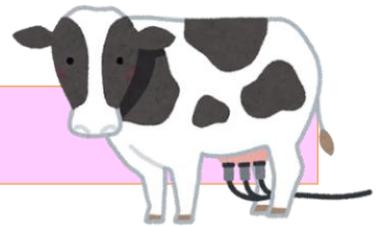
# 牛のサルモネラ症に注意！

～ 季節の変わり目に牛の体調管理徹底を ～

県北地域の酪農場において、令和7年8月にサルモネラ症が発生しました。

本症は、発生すると終息までに数か月を要し、飼養者に経済的、肉体的及び精神的に大きな負担がかかります。

季節の変わり目に発生しやすい傾向にありますので、原因菌の侵入防止と牛の体調管理の徹底により感染を予防しましょう。



## 1 症状

サルモネラ症は、サルモネラ菌に感染した牛が、下痢をしたり、死亡する病気で、子牛から成牛まで発症します。

主な症状は、元気消失、食欲不振、発熱、下痢（悪臭を伴う泥状～水様便→血便）ですが、特に1か月齢未満の子牛では重症化しやすく、目立った症状なく死亡する場合があります。

また、成牛では早産・死流産を起こしたり、搾乳牛では乳量減少により甚大な損失を招くこともあります。

## 2 感染経路



ネズミや野鳥などの野生動物、ヒトや車両、保菌牛の導入などにより農場内に持ち込まれ、経口感染により農場内に広がります。発症牛は、下痢が治まっても糞便中に菌を排出し続け、新たな感染源となります。

## 3 予防・対策

まず、牛舎内に菌を持ち込まない、牛の体調管理により発症させないように予防することが大切です。

そのためには、



### (1) 侵入防止

防鳥ネット、殺鼠剤及び粘着シート等を活用し、野生動物の侵入による菌の持込みを防止するとともに、車両や資機材の消毒、牛舎内の専用長靴・作業着着用により、人や物を介した菌の侵入がないようにします。

定期的な畜舎・器具の清掃は重要で、特に、飼槽・ウォーターカップの消毒は効果的です。

### (2) 発症予防

子牛は、抵抗力が弱いので、保温や換気等に気を付けストレスの無いように管理するとともに、初乳を介した移行抗体の摂取が重要です。

成牛は濃厚飼料ばかりではなく、十分な粗飼料の給与や生菌剤の投与等によりルーメン環境を整えることで、感染のリスクを下げることができます。

なお、ワクチン接種は本症による子牛死亡率低減、菌の排出抑制に効果的です。



岩手県中央家畜保健衛生所  
岩手県県南家畜保健衛生所  
岩手県県北家畜保健衛生所

Tel:019-688-4111  
Tel:0197-23-3531  
Tel:0195-49-3006